

令和7年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

上尾市立大石小学校

上尾市立大石小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- 考える子
- 思いやりのある子
- がんばる子

学校課題研究主題

心豊かに 自ら学び ともに響き合う 大石の教育
～特別活動を軸とした自主的な児童の育成～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R6 上尾市立小・中学校学力調査
・国語の平均正答率は、全国を2.2ポイント上回った。 ・「読むこと」の正答率は全国平均よりも7.8ポイント高いが、「情報の扱い方に関する事項」に課題がある。 ・算数は、全国の正答率と同等の結果となった。 ・算数の「図形」や「記述式」の区分が県、全国平均よりも下回っている。 ・理科の思考・判断・表現では3.1ポイント全国正答率を上回っており、観察・実験を通して、科学的に考察して判断することはできている。	・学力レベルの平均は、5・6年生ともに国語算数とも上昇し、特に5年国語は3段階伸びている。 ・学習方略と非認知能力については、全体的に伸びが低くなっている。 ・国語では、4・5年の記述式問題の平均正答率が県・市平均より高い数値となっている。 ・算数では、どの学年も選択式問題の正答率が低く、基礎的な学習の積み重ねが必要であると考えられる。	・全学年が全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。 ・観点別に見ると、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度の部分に課題が見られる。 ・経年比較（同一集団）で見ると、算数の学力にあまり伸びが見られない。 ・国語は、全学年で記述式の問題に課題が見られる。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にして授業を行う。 ・児童一人ひとりに応じた学習活動を設定し、「わかった」「できた」を実感させる。（個別最適な学び） ・既習内容、新しく学ぶことを明確にして、児童に興味をもたせた授業を展開する。	・各教科の見方・考え方を働かせる授業を展開する。 ・学習形態を工夫し、児童同士で協働しながら学習に取り組めるようにする。（協働的な学び） ・発問を工夫して授業を展開することで、自分の意見の根拠を明確にさせる。	・児童が互いに認め合える環境をつくり、安心して自分の意見を伝えられるようにする。 ・学習の振り返りを通して、自他を認め、自己効力感を高めるとともに、次の学習に主体的に取り組む態度を養うようにする。

本校の特色ある取組

- 特別活動を軸として、主体的に考えさせる授業の展開
- 児童が計画・運営する活動「集会活動」
- 児童相互の交流を深め、豊かな心を育む活動「たてわり班活動」
- 多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う「児童会・クラブ活動」

家庭教育との連携

- 主体的な家庭学習「チャレンジノート」と「デジタルドリル」の活用
- 家庭や地域への情報発信
- 学校応援団の充実した活用

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②、④	①書かれている事柄の順序を整理しながら、文章を読む指導をする。 ②文章の中で大切な言葉や文を見つけながら読む力を育てる指導を行う。 ④登場人物の気持ちを読み取り、音読の仕方を工夫させる。 ④自分が経験したことを、順序に気を付けながら話す機会を設ける。	
算数	①、②、③、⑥	①具体物を用いた活動を通して、数についての感覚や長さなど量の大きさについての感覚を豊かにする。 ②自分に合った方法で考えを表し、これまでに学んだ方法を使って、問題の答えを見つける過程に一緒に取り組む場面をつくる。 ③児童の「なぜ」「どうして」が生まれるような切り返しの発問をしていくことで、思考を深められるようにする。 ⑥導入において、生活経験や既習経験、興味関心、問題意識、知的好奇心を高める発問をする。	
生活	①、④、⑥	①見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を取り入れる。 ④言葉や記録カードなどによって表現する機会を設け、気持ちを伝え合い交流する場を工夫する。 ⑥身近な生き物や植物との関わりが深められるよう飼育、栽培を積極的に取り入れる。 ⑥児童が身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を充実できるように校外での活動を取り入れる。	
音楽	③、⑥	③音楽を形づくっている要素をもとに、曲や演奏の良さを感じ取ることができるようにする。	

		⑥音楽に合わせて体を動かしたり、リズム打ちをしたりして、友達と気持ちを合わせて演奏する楽しさを感じられるようにする。	
図画工作	①、④、⑥	①表現と鑑賞を相互に関係させて資質・能力を育成できるよう、造形活動と鑑賞活動とが往還するような学習過程を設定する。 ④材料コーナーや道具コーナーを設け、児童の発想をもとに表現を工夫できるような場づくりをする。 ⑥題材における発想のきっかけを明確にし、児童の「表したい」を引き出す導入を工夫する。	
体育	①、④、⑤	①各領域の運動における技能の基礎・基本を明確にし、そのための多様な動きを経験できる場を設定し、力いっぱい運動できるようにする。 ④児童に多くの声をかけることで言葉かけの例を示し、児童同士で交流が図れるようにする。 ⑤スモールステップで課題を解決でき、自信がもてるような場を設定する。	
英語活動	①、④	①英語を用いた体験的な活動を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるようにする。 ④英語を通じて、身近で簡単なことについて聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力・英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の素地を養う。	
特別の教科 道徳	⑤、⑥	⑤よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こすことができるようにする。 ⑥身近な事例を取り上げ、規律ある態度についての道徳的価値に迫ることができるようにする。 ⑥児童が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に話し合うことができるよう、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、発問、話し合い、書く活動、表現活動などを工夫する。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②、④	①辞書を活用する機会を増やし、語彙力を高める。 ②中心となる語や文を捉えながら文章を読むことができるようにする。 ④事実と意見を区別して伝えられるように、発表や対話の機会を増やす。	
社会	①、③、④、⑥	①地域ごとの特色、地図記号の意味を理解させるために、地図帳や教材・教具を工夫して活用できるようにする。 ③自分の考えを根拠となるものを元にして書いたり、話したりする機会を増やす。 ④自分たちが地域とどう関わっていくべきなのか考えさせ、表現する機会を増やす。 ⑥都道府県の関心を高めるため、地図帳を活用する。 ⑥ICT機器を活用した授業の工夫に取り組み、関心・意欲を高めることができるようにする。	
算数	①、②、⑤	①具体物を用いた活動を通して、長さや重さなど量の把握に対する感覚を豊かにする。 ②数量の関係を、既習事項を使って解決できるように、言葉や式、数直線等の方法で説明できるようにする。 ⑤適用問題、振り返りの時間の充実を図る。	
理科	①、③、④、⑥	①観察活動を通して、実物にふれる機会を増やす。 ③課題に対して予想を立てさせ、自分の考えを根拠に基づいて説明する活動を増やす。 ④結果を話し合ったりまとめたり考えを発表したりすることができるようにする。 ⑥動物や植物、太陽の様子、体のつくりや空気、水、金属など、身近に見られる事象や変化に対する疑問をもたせ児童の関心を高める。	

音楽	①、③、⑥	①リコーダーの運指や音色作り、発声など基本を定着できるようにする。 ③音楽を形づくっている要素をもとに、曲や演奏のよさを感じ取ることができるようにする。 ⑥歌詞の意味を考えたり、曲の特徴を感じ取らせたりすることで教材の魅力を充分に感じ取り、すすんで音楽活動を行えるようにする。	
図画工作	①、④、⑥	①用具、道具の使用に関する安全指導の徹底を図る。 ④作品や表現のよさや面白さを伝え合う活動を重視し、鑑賞と表現が一体となった学習を展開する。 ⑥導入において、材料や技法の可能性を広げるような出せ方を工夫し、児童の柔軟な発想を引き出す。 ④・⑥様々な身近な材料を用意し、自由に使える環境をつくることで、児童の発想を広げる。	
体育	①、④、⑤	①各領域の運動における技能の基礎・基本を明確にし、動きを高めさせる場を設定し、全力で運動する機会を多くする。 ④児童に多くの声をかけることで言葉かけの例を示し、小グループの活用を積極的に行うことで児童同士の交流が図れるようにする。 ⑤できる喜びを感じ、粘り強く取り組む児童を育成していくために、スモールステップを設定した単元計画を作成する。	
外国語活動	①、④、⑥	①言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違いに気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。 ④外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 ⑥外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
特別の教科 道徳	④、⑤、⑥	④自分と他者との考えを比べ、考えを深める展開となるように工夫する。 ⑤教材を自分との関わりでとらえ自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるような終末となるように工夫する。 ⑥教材に対する興味や関心を高める導入を工夫する。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③、④	③新聞記事の紹介やお勧めの本など、事実を元に自分の意見を伝える機会を設け、根拠を分かりやすく伝えることができるようにする。 ④考えをまとめる際には、短い言葉で端的にまとめる活動に繰り返し取り組むことができるようにする。 ④登場人物の相互関係や心情の描写を根拠に自分の考えをもち、自分の生き方や考えについて友達と交流することで考えを深めることができるようにする。	
社会	①、②、③、⑥	①資料集や地図帳を活用し、理解を定着できるようにする。 ②資料を活用して、情報を多角的に読み取り整理することができるようにする。 ②時代ごとに特徴を捉えさせ、比較を通して時代の変化を考えることができるようにする。 ③読み取った情報から、土地の様子や環境と国民生活との関連について自分の考えをもつことができるようにする。 ⑥政治について関心をもつことができるようにするために、ニュースを取り上げたり、新聞を活用したりする。 ⑥ICT機器を活用した授業の工夫に取り組み、関心・意欲を高めることができるようにする。	
算数	③、④、⑤	③文章で書かれた問題を図や式に表し直したり、図を言葉に置き換えたりして考えることができるようにする。 ④小グループで話し合う活動を通して、自分の考えを伝える機会を増やす。 ⑤適用問題、振り返りに取り組む時間の充実を図る。	

理科	③、④、⑥	③観察・実験から分かったことを結果をふまえながら考察としてまとめることができるようにする。 ④課題に対して予想を立てさせ、根拠に基づいて説明できるようにするために、友達と考えを伝え合わせる場面を設定する。 ⑥物の溶け方や振り子の運動、電磁石の働き、月の満ち欠けや燃焼、空気の組成など、生活の中で活用されている場面と関連付けて関心を高めることができるようにする。 ⑥実験の詳細や計画など、調べたいことや目的に応じて、自分たちで条件設定を考えることができるようにする。	
音楽	②、④、⑥	②互いの歌声や音色をじっくりと聴き合い、表現の良さを判断できるようにする。 ④音楽を形づくっている要素をもとに、曲のよさを感じ取り、作詞者、作曲者の思いにまで目を向けることができるようにする。 ⑥歌詞の意味を考えたり、音楽の構造・構成などの特徴を感じ取ったりすることで、教材の魅力を十分に味わいながら音楽活動を行うことができるようにする。	
図画工作	④、⑥	④作品に込められた思いを伝え合う活動を重視し、鑑賞と表現が一体となった学習を展開する。 ⑥導入において、材料や技法の可能性を広げるような出会い方を工夫し、児童の柔軟な発想を引き出す。 ④・⑥様々な身近材料を用意し、自由に使える環境をつくることで、児童の発想を広げることができるようにする。	
家庭	①、④、⑥	①調理器具やミシンなどの学習に関わる掲示物を児童によく分かる場所に掲示し、衛生面や安全面を意識することができるようにする。 ④小グループの活動では、お互いの作った物を見せ合いながら意見を交換することができるようにする。 ⑥自分の生活や自分の家族の生活から問題を見いだして、課題を設定することで、自ら進んで学習に取り組めるようにする。	
体育	①、④、⑤	①各領域の運動における技能の基礎・基本を明確にし、動きを高めさせる場を設定し、全力で運動する機会を多くする。 ④小グループの活用を行い、児童が感じたことや友達へのアドバイスなどを伝え合う場を設ける。 ⑤できる喜びを感じ、粘り強く取り組む児童を育成していくために、スモールステップを設定した単元計画を作成する。	

外国語科	①、②、④、⑥	①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しむことができるようにする。 ②外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けられるように、スパイラルの学習を意識して、既習事項を適時振り返りながら授業を行う。 ④外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う授業を行う。 ⑥外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする導入や展開の授業を行う。	
特別の教科 道徳	③、④、⑥	③道徳的諸価値に関わる様々な課題について議論を行い自分との関わりで考えることができるように工夫をする。 ④教材や体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、発表し合ったり、話し合いなどにより異なる考えに接し、多面的・多角的に考え、協働的に議論したりするなどの工夫をする。 ⑥自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して、多面的・多角的に理解できるようにする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○特別活動を軸として、自主的に考えさせる授業の展開	・望ましい集団活動を通して、達成感や充実感を養い、自己効力感を高める。 ・児童一人ひとりに応じた学習活動を設定し、「わかった」「できた」を実感できるようにする。 ・学習形態を工夫し、児童同士で協働しながら学習に取り組めるようにする。
○児童が計画・運営する活動「集会活動」	・教師の適切な指導のもと、児童が計画・運営しながら楽しく充実した学校生活を推進できるようにする。(委員会集会、プール開き集会、英語集会等)
○児童相互の交流を深め、豊かな心を育む活動「たてわり班活動」	・市内で最も児童数が多いという特長を生かして、児童の多様な人間関係作り(異学年で活動する場を通して、他者や年下の児童への思いやりのある心を育てる。)を推進する。
○多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う「児童会・クラブ活動」	・協働して取り組み、異年齢集団における人間関係をよりよく形成できるようにする。
家庭教育との連携	
○主体的な家庭学習「チャレンジ学習」「デジタルドリル」の活用	・「チャレンジノート」という家庭学習用ノートを活用し、家庭学習の習慣化に取り組む。興味・関心の高いことから始めて、少しずつでも毎日取り組むことを重視し、児童が進んで学習に取り組むための基礎作りとする。また、デジタルドリルを活用して、個別最適な学習を進めていく。
○家庭や地域への情報発信	・学校便りをはじめとした従来の紙面での情報発信だけでなく、学校ホームページの活用やさくら連絡網によるリアルタイムな情報の配信をする。
○学校応援団の充実した活用	・体験活動、校外行事の引率・安全確保、学習補助、環境美化などのボランティア活動を通して、学校と家庭、地域が連携して児童を育成できるようにする。 ・生活科や総合的な学習の時間等、地域の教育力を生かした授業づくりを行う。